

編集後記

風薫る5月になりました。例年より暖かくなるのが早く感じられ、既に半袖で出勤する毎日です。編集委員に就任し、もうすぐ2年。編集作業は既に生活の一部?!となっています。

さて、若手の皆さん、日々の生活で学術的なアウトプットをどのくらいしているのでしょうか?比較的最近のベストセラーである「学びを結果に変えるアウトプット大全(樺沢紫苑著、サンクチュアリ出版)」に、「圧倒的に結果を出し続けている人は決まって、インプットよりアウトプットを重視しています」とあります。なぜなら、インプットされた情報は、自分の頭で考えアウトプットすることにより記憶として定着し、さらに自分を成長させる糧となるからだそうです。このアウトプットの大切さは、指導医として研修医や大学院生を教えた経験を考えると、自然に納得できるのではないかと思います。

症例報告をまとめることは、アウトプットの貴重な経験

です。該当する疾患の病態について文献を調べ、深く考え、考察を論理的にまとめる過程は、上記のアウトプットそのものです。論文を書き始めて初めて、診るべきであった診察所見や実施すべき検査に気がつくこともあるでしょう。このような気づきも、次に同じような患者さんを診る時に大きな力となります。また、後輩に口頭で説明するのと、引用文献を示しながら文章にまとめるのでは、労力の大きさ、思考の深さ、責任の重さが全く違います。

先輩から症例報告や地方会発表を勧められた時、「面倒くさい…」「忙しくなるのはイヤだな」と思うことはあるかもしれませんが、しかし、折角経験したことを効果的にアウトプットすることは、若手の皆さんを必ず成長させます。皆様の大切な「アウトプット」を臨床神経学はいつもお待ちしております。

(三澤園子)

〈編集委員〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第59巻 第5号 2019年5月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス : <http://www.neurology-jp.org/>